

大阪故鉄、持続可能な社会のために

設立70周年

戦時中の日本では鉄スクラップ回収・配給が行われており、創業者の故・矢追欣爾氏は金属回収会社の一員だったが、第二次世界大戦の後1946年2月に金属回収会社は解散したため、同年3月に矢追欣爾商店を大阪市浪速区に開業した。

1952

1952年1月、現社名の大阪故鉄として法人化し、株式会社としての新たなスタートを切った。大手高炉メーカーをはじめとした納入指定問屋で、1960年代の早期から工場・設備投資を進めていく。



1971

大阪市西成区にあった津守工場を閉鎖し、現在地に本社営業所・工場を開設した。大阪市内で各方面にアクセスしやすい上に、市内では貴重な工場用地にある。次の100周年に向けて本社・工場の全面リニューアルも計画する。



1990

創業者の矢追欣爾氏が会長に、矢追徹夫氏が2代目の社長に就任した。矢追徹夫・隆兄弟が2001年2月に発行した「鉄のひと水のひと矢追欣爾遺稿集」では欣爾氏の

人となりについて、「生涯を鉄の商いにかけた。水辺で魚釣りをたのしむことを、人生の友とした。鉄のような堅物でいながら、水のようにやさしいひとでもあった」と記した。

1998

本社と深江工場の2拠点体制で事業展開をしてきたものの、手狭だった深江工場の老朽化が進んだため、深江工場を閉鎖するとともに新工場となる諸福営業所・工場の開設に踏み切った。

南北に走る中央環状線（大阪府幹線道路）そばの好立地が強みの一つ。一方で交通量や人の往来が多いことから防音や防振、防じん対策強化などの環境対策を取った都市型スクラップヤードとして営業を展開している。



2019



矢追大祐氏が3代目社長に就任し、徹夫氏は会長に就いた。矢追社長は「会社が生き残るためには『変化への対応力』が前提条件」とし、時代の変化に敏感に反応して対応できる会社を目指す。

2021

諸福工場ですべての駐車場やバックカン（コンテナ）置き場として使用してきた隣接地を改修し、屋外ヤードを拡張した。拡張工事は諸福工場プロジェクトチームを立ち上げて、さらに作業効率を上げようと現場力を結集。解体スクラップなどの母材の荷降ろしや選別などの作業効率を高めた。



2022 設立70周年を迎える。

金属スクラップで循環型社会に貢献

鉄スクラップ加工販売大手の大阪故鉄（本社：大阪市住之江区）は、今年1月に設立70周年を迎えた。3代目となる矢追大祐社長は創業者で祖父にあたる故矢追欣爾氏、父で現会長の矢追徹夫氏、そして従業員や取引先など関係者全てに感謝するとともに、「非常に変化が激しい経営環境において、100周年に向けてより柔軟に事業展開していけるようさまざまな準備を進めたい」と次のステージを見据える。



矢追社長

■脱炭素化で注目される金属リサイクル事業
本社・工場と諸福営業所・工場（大阪府大東市）による2拠点体制で、需要が多くなる鉄鋼メーカー各社に高品質な鉄スクラップの供給を進めている。特に国内では自動車や家電などの製造工程で発生する薄鋼板の端材などの「新断」

スクラップは不純物が少なく、鉄鋼メーカーからの需要が旺盛。脱炭素が加速する中、資源として価値が一段と増す「新断」の取扱量は大阪市内でトップクラスを誇る。ビルやマンションといった建物の解体工事などから出る鉄スクラップも積極的に取り扱う。鉄は何度も繰り返し新しい鋼材として再利用できることから「リサイクルの優等生」と言われているが、そのための重要な原料こそが鉄スクラップ。リサイクルシステムの一翼を担い、金属リサイ

クル事業を展開する同社ではより再生原料として使用しやすいよう、徹底選別し加工することで循環型社会を支えている。

■人材確保・育成に注力する
矢追社長が就任後、注力しているのが人材確保・育成だ。同社ではこれまで行ってきた新卒採用を検討するほか、営業職や現場職への女性の採用を積極的に目指す方針。今の若手メンバー、そしてこれから新たに入社してくる人たちに、新しい会社をもう一つ立ち上げるつもりで人材育成・確保を進めていく。その次世代メンバーに設立100周年に向けて会社の中心を担ってほしい」と期待を寄せる。

■100周年を目指しての展望と課題
最大の課題は本社工場の全面リニューアル。5・10年以内

SDGs 6目標に取り組む

2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発の2030アジェンダ」で掲げられたSDGs。大阪故鉄は「鉄スクラップのリサイクル」を通じ、下記の6つの目標達成に向けて取り組んでいる。



安心と信頼に見える化

大阪故鉄では「SDGs（持続可能な開発目標）」への取り組みを具体化して社内への浸透を図るため、第三者評価機関を活用した認定などの取得に積極的に取り組んでいる。「近隣住民や顧客に対する企業のイメージアップだけではなく、外部評価が人材確保などにに向けたPRにもつながれば」（矢追社長）と期待する。

事業継続力強化計画

経済産業省から2021年9月30日付で「事業継続力強化計画」の認定を受けた。「事業継続力強化計画」は、中小企業が策定した防災・減災の事前対策に関する計画を経済産業大臣が認定する制度。同社では自然災害などの非常時にも事業の継続や早期復旧して「鉄スクラップの仕入れ先や納入先に対しての責任を果たす」（矢追社長）ため、20年に独自の事業継続計画（BCP）を初めて策定していたが、BCPを見直すタイミングで第三者機関となる中小企業庁に審査を受けた。「取引先や事業拠点を置く地域の方々、そして従業員の安心安全の確保につながる」（同）ことが狙いだ。



環境 ISO14001



昨年11月、本社工場と諸福工場で環境ISO14001の認証を取得した。これまでも環境対策投資などを積極的に進めてきたが、同社が注力する「SDGs」（持続可能な開発目標）の取り組みの一環として認証取得を決めた。「自社の環境対策に向けた取り組みを第三者機関にしっかり評価してもらうとともに、『SDGs』への取り組みを社内により浸透させたい」（矢追社長）という。

グッド・セーフティ・カンパニー

中災害が安全衛生活動などを評価する、「中小規模事業場労働安全衛生評価事業」（JISHAグッド・セーフティ・カンパニー）の認定を昨年12月に受けた。同社では定期的には中災害から講師を招いて安全講習会を行うなど、「時間とコストをしっかりとかけて安全対策に取り組んできたこともあって、工場の安全レベルは業界トップレベル。グッド・セーフティ・カンパニーの取得は安全面における企業価値の向上につながる」（矢追社長）と話す。



おかげさまで設立70周年

—— 100年企業を目指し、夢と誇りを持って邁進します。 ——

お陰様で、当社はこのたび設立70周年を迎えました。
これもひとえに関係各位のご支援の賜と厚く御礼申し上げます。
「お客様にとって一番の会社になる!」「家族に誇れる仕事をする!」の新たな合言葉を胸に
中身のある100年企業を目指し、これからも夢と誇りを持って前に進んでまいります。
今後ともなお一層のご支援とご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。

大阪故鉄株式会社

代表取締役 矢追大祐

本社・工場 〒559-0026 大阪市住之江区平林北1丁目2番22号 TEL.06-6681-5761代 FAX.06-6681-5766
諸福営業所・工場 〒574-0044 大阪府大東市諸福7丁目4番38号 TEL.072-874-9861代 FAX.072-874-9866

メタルリサイクラー
OSAKA KOTETSU



持続可能な社会の構築へ

弊社は2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発の2030アジェンダ」で掲げられたSDGsの目標達成に向けて「鉄スクラップのリサイクル」を通じて、別記の取り組みにより持続可能な社会の構築に貢献してまいります。



SUSTAINABLE
DEVELOPMENT
GOALS

大阪故鉄は持続可能な開発目標（SDGs）を支援しています。

www.kotetsu.co.jp

